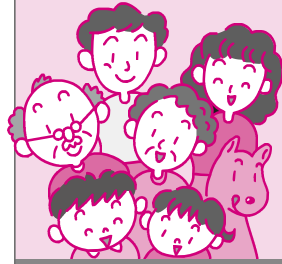


砺波総合病院から



耳鼻咽喉科
山本 環

市立砺波総合病院 ☎32-3320
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

知っているようで知らない 鼻血あれこれ

鼻出血

鼻血とは文字通り鼻から出血することです。子どもの頃から度々鼻血を経験する場合がありますが、ご高齢になって初めて出血してしまうと心配する方もおられます。一口に鼻血と言ってもいろいろなパターンがあり、原因もさまざまです。しかし、一般的な鼻出血では生命に危険が及ぶ重い病気が隠れていることは少なく、適切な方法で止血できます。血を見ても慌てずに対応していただくと。

一般的な鼻出血とその止血法

鼻血の大部分は、鼻中隔の前方の



キーゼルパツハ部位（鼻に指を少し入れた時に、指で触ることのできる真ん中の壁の部分）からの出血です。キーゼルパツハ部位は、毛細血管がたくさんあり、粘膜が薄くて傷付きやすいため、鼻の入り口を指でさわったり鼻をかんだり、出血しやすいのです。子どもは、アレルギー性鼻炎による鼻づまりやかゆみから、鼻を触って傷付けることがしばしばあります。大人の場合にも、この部位が主な出血場所です。

鼻血の止め方としてよく世間でいわれている方法で「上を向いて後ろ首をトントンする」とか「目頭の硬い骨を押しやる」とか「頭を冷やす」とかは間違いであったり効果が少なかったりします。また、上を向いたり、仰向けに寝たりすると鼻から出る出血が少なくなるように思いますが、鼻血は口の中やのどに流れ込んでいます。ただ、血液を飲み込むと気持ちが悪くなったり嘔吐したりしますので、のどに流れ



正しい鼻血の止め方

た血液は飲み込まずに吐き出してください。

鼻血の正しい止め方は「上体を起こして座位で顔をやや下向きにした姿勢をとり、親指と人差し指で小鼻をつまんで5〜10分間圧迫する」です。やわらかい鼻翼を押し当てて鼻中隔の骨を圧迫する、いやな臭いをシャットアウトするポーズです。これで、キーゼルパツハ部位をしっかり圧迫し止血を図ることができます。

止血しても、すぐに鼻をかんだり触ったりすると傷口がまた開くので注意してください。同様に、ティッシュペーパーを詰めると、抜くときにまた傷をつけてしまうことが多いので、あまりお勧めできません。

なかなか止まらない時

正しい止血法で30分圧迫してもどんどん口の中に流れ込んでくる時は、救急車などを呼び、救急診していただく

鼻腔後方など特殊な部位からの出血が疑われます。軟膏カテーテルポンプによる圧迫や、血管焼灼などで止血を図ります。それでも止血し難い場合には入院していただき、鼻腔後方にバルーンを挿入する方法や、出血動脈の塞栓術などの対処を図ります。

その他の鼻出血

いつも同じ片鼻から少量の出血をくりかえす（鼻をかむと少量の血が混じる）時には、鼻中隔彎曲症や副鼻腔炎のような病気が、まれには鼻や副鼻腔の癌が原因のこともありますので、検査のため耳鼻咽喉科を受診してください。その他にも、しつこく繰り返すときは、白血病などの血液疾患が隠れている場合もありますので、気になる場合には病院へ。

ほとんどの鼻出血は、正しい圧迫で必ず止まります。慌てずに、まず鼻をつまむ止血法を行ってみてください。

病院敷地内禁煙のお知らせ

当院では、病院敷地内全域が禁煙となっています。

患者さん、ご家族、お見舞いの方々の健康の増進を図るとともに、受動喫煙を防止するため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

